□講義科目（共通科目）

科目名	看護学研究方法特論Ⅰ	２単位
担当者	岡田　由香、白尾　久美子	
テーマ	看護学領域における研究方法の概要	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①看護学研究の概要　②研究目的の明確化　③文献クリティーク ④研究デザイン・研究方法　⑤データ収集と分析の方法 ＜内容の要約＞ 多様な看護活動における看護現象を研究課題として、看護実践の質向上に繋がり、ひいては看護学の体系化に資する研究を継続して実施していくための基本的な看護研究方法に関する知識を身につけるために、一連の研究過程について学修する。研究課題を明確にするための文献検索と研究論文に対するクリティーク、研究課題を達成するための種々の具体的研究方法の概要と研究計画作成の基盤となる知識を習得し、また、研究の実施に必要な研究倫理などの基本姿勢への理解を深める。 ＜学習目標＞ １.研究を遂行する上で必要な基本的知識を理解し、活用できる。 ２.基本的な知識を基盤として、臨床現場における課題を研究計画につなげることができる。 ３.既存の文献で得られた知見について、看護実践への具体的活用を説明できる。 ４.看護研究者としての基本的態度を身に付け、真摯な態度で研究を遂行することができる。	
授業の進め方	第 1 回　看護学研究の概要：看護学研究の特徴と意義 第 2 回　研究疑問の明確化 第 3 回　文献検索と文献検討 第 4 回　文献のクリティーク(1) 第 5 回　看護研究における倫理 第 6 回　看護研究の方法 第 7 回　量的研究方法(1) 第 8 回　量的研究方法(2) 第 9 回　質的研究方法(1) 第 10 回　質的研究方法(2) 第 11 回　文献のクリティーク(2) 第 12 回　研究計画書の作成 第 13 回　新しい看護研究の動向・事例研究について 第 14 回　研究計画書の検討・作成(1) 第 15 回　研究計画書の検討・作成(2)	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	看護学研究方法特論Ⅱ、各看護学領域の特論科目、各看護学領域の特論演習科目、特別研究	
テキスト	黒田裕子(2023). 黒田裕子の看護研究 Step by Step　第６版.東京：医学書院. N.バーンズ、S.K.グローブ；黒田裕子他監訳(2023).バーンズ＆グローブ看護研究入門 原著第９版　評価・統合・エビデンスの生成. 東京：エルゼビアジャパン.	
参考文献	アメリカ心理学会, 前田樹海他訳(2023) .APA 論文作成マニュアル　第３版. 東京：医学書院. 南裕子, 野嶋佐由美(2017). 看護における研究第２版. 東京：日本看護協会出版会. ＊その他の資料は適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、文献クリティーク(30%)・研究計画書(40%)についての課題レポートで評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	看護学研究方法特論Ⅱ	２単位
担当者	岡田　由香、白尾　久美子	
テーマ	看護学領域における研究の具体的な方法(データ収集と分析)	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①研究デザイン・研究方法　②量的データの収集と分析の方法 ③質的データの収集と分析方法　④研究論文のまとめ方 ＜内容の要約＞ 研究疑問を明らかにするという研究目的の達成に適切な研究デザインと質的および量的データ収集の具体的方法の特徴と適用を詳細に学修し、研究計画作成に活用し実施できる知識を習得する。特に、質問紙調査法の質問票作成・インタビュー方法と質問内容決定・実験方法と実験項目などは目的と分析方法とを関連させながら検討する重要性を理解し、確実に実施・分析できるよう詳細に学ぶ。 ＜学習目標＞ １.研究目的達成のための研究デザイン選択について学修し、自らの研究に活用できる。 ２.システマティックレビューについての理解を深め、説明できる。 ３.看護学研究におけるデータ収集とデータ分析についての理解を深め、活用できる。 ４.研究遂行や論文作成に対する誠実で真摯な態度で研究を遂行することができる。	
授業の進め方	第 1 回　研究論文のまとめ方とプレゼンテーションの方法 第 2 回　看護研究における各研究デザインの活用：標本抽出 第 3 回　研究目的達成のための研究デザインの選択：測定の概念 第 4 回　研究目的達成のための研究デザインの選択：測定方法 第 5 回　データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴 データ収集と管理・統計解析 第 6 回　データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴 記述統計・相関分析 第 7 回　データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴 推測統計・差の検定 第 8 回　データ収集とデータ分析：量的アプローチによるデータ収集方法の特徴 研究結果を解釈する 第 9 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ収集方法の特徴 第 10 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ収集方法 インタービュー（演習） 第 11 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析 コード化（演習） 第 12 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析 カテゴリー化（演習） 第 13 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析 グラウンデッド・セオリー法　エスノグラフィ 第 14 回　データ収集とデータ分析：質的アプローチによるデータ分析 記述的質的研究　現象学的アプローチ 第 15 回　データ収集とデータ分析：質的文献のクリティーク	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	看護学研究方法特論Ⅰ、各看護学領域の特論科目、各看護学領域の特論演習科目、特別研究	
テキスト	N.バーンズ、S.K.グローブ；黒田裕子他監訳(2023).バーンズ＆グローブ看護研究入門 原著第９版　評価・統合・エビデンスの生成. 東京：エルゼビアジャパン.	
参考文献	グレッグ美鈴，麻原きよみ，横山美江編著（2016）よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして.第２版. 東京：医歯薬出版. ジャニス M. モース，ペギー・アン・フィールド，野地有子訳(2012). モース&フィールドの看護研究 ： 質的研究を実際に始めるためのガイド. 東京：日本看護協会出版会. 小塩真司(2011). SPSS と Amos による心理・調査データ解析. 東京：東京図書. ＊その他の資料は適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	授業におけるプレゼンテーション(40%)や、文献クリティーク(30%)・課題レポート(30%)で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	看護教育特論	２単位
担当者	新美　綾子、柴　邦代	
テーマ	専門職としての看護職が備えるべき教育技法についての知識と技術の理解を深め、看護活動の対象者のみならず、自己および同僚ならびに看護学生への教育力を培う。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①看護教育　②教育理論　③技術教育　④カリキュラム　⑤指導展開 ＜内容の要約＞ 専門職としての看護職が備えるべき教育技法を展開する力を培うために、教育の基本原理と方法の理解を深め、専門職養成教育および技術教育の特質を知り、適切な教育方法および効果評価に関する知識と実際を学修する。看護活動の対象者のみならず、自己、同僚、看護学生などへの教育指導展開について、既存のガイドラインなどを交えながら知識を深める。看護制度における基礎教育・継続教育・自己研鑽などの教育のあり方と課題について、他の専門職や他の国などと比較検討を重ねながら考察する。 ＜学習目標＞ １.看護教育の基盤となる、教育に関する基本的知識を理解し、教育を展開する方法を習得できる。 ２.専門職養成教育および技術教育の特質を知り、適切な教育方法の原理と実際を理解できる。 ３.看護教育の基礎教育・継続教育・大学院教育など、段階に応じた教育について、既存の各報告書やガイドラインについて知り、今後の実施上の課題を検討できる。 ４.他の医療職種・専門職種の教育と制度や、他の国の看護教育制度などを知り、日本の看護教育との比較検討の中から、今後の日本の看護教育の在り方について考察し、討議できる。	
授業の進め方	第１回 ガイダンス　看護教育制度、関連法規 ※　受講生の背景や将来の進路により授業内容の一部を変更する可能性があります。 第２回　看護教育の歴史的変遷と教育課程の編成 第３回　教育・学習理論：看護学教育における授業展開を支える学習理論 第４回　成人教育実践と看護教育学研究 第５回　看護基礎教育に関するテーマ①　カリキュラムの変遷と現行カリキュラム 第６回　看護基礎教育に関するテーマ②　看護技術教育 第７回　看護基礎教育に関するテーマ③　授業設計、授業評価 第８回　看護基礎教育に関するテーマ④　シミュレーション教育 第９回　看護基礎教育に関するテーマ⑤　看護学実習における学習活動と教授活動 第 10 回 看護基礎教育に関するテーマ⑥　看護基礎教育における OSCE 第 11 回 看護継続教育に関するテーマ①　新人教育 第 12 回 看護継続教育に関するテーマ②　現任教育 第 13 回 看護教育・臨床現場における課題の検討① 第 14 回 看護教育・臨床現場における課題の検討② 第 15 回 看護教育・臨床現場における課題の検討③	
事前学習の内容 学習上の注意	・事前に講義のテーマについて、テキスト及び参考書、既存文献を熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨みましょう。 ・担当する内容はプレゼンテーションを行い、ディスカッションによりすすめます。 ・ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えを深めましょう。	
本科目の関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	未定	
参考文献	杉森みど里, 舟島なをみ（2021）, 看護教育学．第 7 版．医学書院.	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	看護理論特論	２単位
担当者	池松　裕子、岡田由香、小笠原ゆかり、白尾久美子、水谷聖子	
テーマ	主要な看護諸理論を、看護実践・教育・研究の看護活動との関係から分析検討して理解を深め、看護活動における活用を考察するとともに、理論特性と構築方法を学び、看護研究者として新たな看護理論を探求する基盤となる力を培う。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①看護理論　②メタパラダイム（大理論）　③中範囲理論　④看護活動 ＜内容の要約＞ 看護学の体系化に資する研究を継続するための基盤として、多様な臨床現場の看護現象を説明するための基本となる既存の看護理論について広く学び、看護理論の意義や必要性、理論構築過程について理解を深める。また、看護理論の発展の歴史的背景や、大理論や中範囲理論の代表的な理論について哲学的基盤・主要概念・適用範囲など、看護実践や教育、研究への活用について学修し、自らの関心領域や研究課題に関連して、特定の看護理論及び諸理論の適用の妥当性について検証し具体的に活用できる力を培う。 ＜学習目標＞ １.看護活動の基盤となる主要な看護理論について、哲学的基盤・主要概念・適用の妥当性などの基本的特質を理解して説明できる。 ２.看護理論が看護活動で果たす役割と意義および理論が備えるべき特質ならびに理論の限界について説明できる。 ３.看護理論に関するこれまでの研究について学修し、構築法について理解し説明できる。 ４.他の医療職種・専門職種の活動を支える理論を知り、看護理論の在り方を考察し討議できる。	
授業の進め方	第 1 回 理論の特質　理論とは何か・理論の特質・看護理論の歴史　看護活動における意義（池松） 第 2 回 理論の構築　理論の構築過程を既存研究の分析検討を通して理解する(池松) 第 3 回 主要理論①　既存の主要な看護理論について、看護理論の哲学的基盤・主要概念・適用の妥当性などを理解する （ヘンダーソン/看護の定義）（岡田,ゲストスピーカーと共同） 第 4 回 主要理論②　同上（ナイチンゲール/環境理論）（岡田,ゲストスピーカーと共同）） 第 5 回 主要理論③　同上（薄井坦子/科学的看護論（小笠原） 第 6 回 主要理論④　同上（中範囲理論：バンデューラ/自己効力感（小笠原） 第 7 回 主要理論⑤　同上（中範囲理論：オレム/セルフケア理論）（岡田） 第 8 回 主要理論⑥　同上（中範囲理論：ストレス理論）（白尾） 第 9 回 主要理論⑦　同上（中範囲理論：危機理論）（白尾） 第 10 回 主要理論⑧　同上（中範囲理論：ペンダー/ヘルスプロモーション）（水谷） 第 11 回 主要理論⑨　同上（中範囲理論：行動変容ステージモデル）（水谷） 第 12・13 回　自己の今までの看護活動を通して理論の活用についてふりかえり発表 第 14・15 回　看護専門領域における理論の関係を討議し、自己の考えを纏める	
事前学習の内容 学習上の注意	各回の主題について理解が深まるように事前に調べて参加する。参加状況は評価対象とする。自己の今までの看護活動をふりかえり、理論との関係について分析検討し、発表する。また、討議により看護専門領域における理論の活用を考察する。各自発表したテーマに対する考察を課題レポートとして提出したものを評価対象とする。	
本科目の関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	筒井真優美　編：看護理論家の業績と理論評価．第２版　医学書院	
参考文献	筒井真優美　編：看護理論　改訂第３版　看護理論 21 の理解と実践への応用．南江堂. 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論 第２版．メジカルフレンド社 Beth L.Rodgers 著・編　近藤麻里 監修：看護における概念開発 基礎・方法・応用　医学書院 城ケ端初子：新訂版　実践に生かす看護理論 19　第２版　サイオ出版	
成績評価方法と基準	課題レポート（60%）講義の参加度・プレゼンテーション（40%）。60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	家族支援特論	２単位
担当者	大橋　幸美、古澤　亜矢子	
テーマ	家族アセスメントと家族看護介入についての基礎的知識を習得し、これまでの家族看護実践を振り返る中で、家族看護に対する理解を深める。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①家族の健康　②家族看護の基盤となる主な理論・モデル　③家族アセスメント ④家族看護における具体的な介入方法　⑤家族看護実践の事例検討 ＜内容の要約＞ 近年の少子高齢社会に伴う、保健・医療・福祉制度の変遷に関連して、健康問題を有しながら生活する個人とその家族を取り巻く環境は大きく変化し、家族への負担が大きくなっている。家族員の健康問題に関わる生活上のニーズに応じて、家族がどのような対応や変化を求められるのかを推察しながら、家族の健康や生活について、系統的なアセスメントを行うための知識を学修する。また、その家族全体への支援を計画する上で有用な家族看護学の代表的理論やモデルについて学習し、その実践的な活用について理解を深める。 ＜学習目標＞ １．わが国の少子高齢社会を背景とした“家族”の実態を理解し、説明できる。 ２．家族看護の基盤となる主な理論について学修し、説明できる。 ３．家族看護に使われる主な看護モデルについて学修し、説明できる。 ４．実際の経験事例などについて、基本的な家族アセスメントを行うことができる。 ５．実際の経験事例などについて、介入方法を検討し、考察できる。	
授業の進め方	第 1 回　家族看護の歴史的背景とわが国における家族看護の動向 第 2 回　家族の捉え方および家族の基本的構造と機能、家族の健康 第 3 回　家族看護の基盤となる理論(1)　家族発達理論・役割理論 第 4 回　家族看護の基盤となる理論(2)　家族システム理論 第 5 回　家族看護の基盤となる理論(3)　家族ストレス・対処理論 第 6 回　家族看護における代表的なモデル 第 7 回　家族看護における代表的なモデル 第 8 回　家族看護における介入 第 9 回　家族支援 CNS による家族看護実践例の紹介、ゲスト講義を実施 （ゲスト講師との共同開講） 第 10 回～第 14 回　受講生の経験してきた家族事例の分析と家族支援に関する検討 （例）・在宅(地域)で高齢者を介護する家族への支援 ・慢性疾患を有する家族メンバーとともに生活する家族への支援 ・小児期の医療的ケアを担う家族への支援 ・救急搬送などの家族メンバーの急な変化に直面する家族への支援　など 第 15 回 家族看護学における支援に関する課題と今後の展望(まとめ)	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業は受講生の発表と討議を中心に行われるため、各自、積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	特に指定しない。	
参考文献	上別府圭子（2024）家族看護学．医学書院 中野綾美・瓜生 浩子編（2020）家族看護学：家族のエンパワーメントを支えるケア.メディカ出版. ＊その他の資料は適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、グループワーク資料(30%)・最終課題レポート(40%)について評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（共通科目）

科目名	保健医療福祉システム特論	２単位
担当者	水谷　聖子、尾島　俊之、小島　香	
テーマ	厚生行政の機能と政策の仕組みについて学ぶ	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①ポリシー　②ニーズ　③社会資源　④厚生行政　⑤保健医療福祉制度 ＜内容の要約＞ 看護学研究の課題と成果は看護活動に還元される。看護活動は社会で展開され、社会を動かす保健・医療・福祉政策との関連を理解することは重要である。世界および日本で展開されている保健・医療・福祉政策の基本的考え方と政策決定過程とその影響要因を知るとともに、実際の医療などに関する今日的課題や将来予測まで広く学ぶ。政策過程における科学的根拠の重要性、政策分析から新たな政策提案など、保健医療福祉政策に対する建設的意見を生成できる力を培う。 ＜学習目標＞ １.医学≠医療であり、 アイディアを出すことが政策の要ではないことを理解できる。 ２.保健医療福祉政策から保健医療制度がつくられるマネジメントの過程が理解できる。 ３.保健医療福祉政策をめぐるさまざまな課題が看護にも関連していることが理解できる。 ４.さまざまな保健医療福祉政策を通じて看護についての課題解決方策を理論的に提案できる。	
授業の進め方	第 1 回 保健医療福祉の定義と社会保障：学と論、医学と医療 第 2 回 日本の保健医療福祉政策の歴史 第 3 回 日本の保健医療福祉に関する法律 第 4 回 保健医療福祉制度と資源配置・社会保障 第 5 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：親子・少子化 第 6 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：成人 第 7 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：高齢者 第 8 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：メンタルヘルス 第 9 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：虐待 第 10 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：アディクション 第 11 回 保健医療福祉と健康課題・生活課題：引きこもり・ヤングケアラー（ゲスト） 第 12 回 社会諸外国の保健医療福祉制度① 第 13 回 保健医療福祉情報とリスクマネジメント 第 14 回 保健医療福祉計画と評価：PDCA サイクル 第 15 回 保健医療福祉に貢献する看護（ゲスト）	
事前学習の内容 学習上の注意	シラバスに基づき、講義内容に関する予習を行い講義に臨むこと。提示したテーマについて、講義とプレゼンテーションを交えながら展開する。事前に配布されたプリントや資料がある場合には、よく読んでおくこと。	
本科目の関連科目	各看護学特論、各看護学実践論、特別研究	
テキスト	必要に応じて逐次指示・配布する	
参考文献	・星旦二 , 麻原きよみ（編）(2022) これからの保健医療福祉行政論 第 3 版 法・制度としくみ/施策化・政策形成/地域づくり 日本看護協会出版会 ・尾形裕也（2022）この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題 2025 年のヘルスケアシステム（看護管理実践 Guide） ・『国民衛生の動向』『国民の福祉と介護の動向』『保険と年金の動向』 （厚生の指標 増刊）最新刊　厚生労働統計協会（著） ・『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。	

□講義科目（共通科目）

科目名	地域協働特論	２単位
担当者	水谷　聖子、森　礼子	
テーマ	多機関、多職種との連携・協働による継続した健康支援	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①地域包括ケアシステム　②多職種連携　③対象となる人々との協働 ④ソーシャルキャピタル　⑤地域社会の醸成 ＜内容の要約＞ 看護活動はあらゆる健康状態の人々へ展開し、関連職種の人々との連携活動も多様である。地域連携活動の実際例を通して、地域で生活する個人・家族の尊厳の保持、自立生活の支援を目指し、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる多機関や多職種との連携・協働について学ぶ。また模擬事例や文献を通してケースマネジメント、多職種連携によるチーム支援を推進し、地域連携において展開できる能力を培う。 ＜学習目標＞ １.さまざまな疾病や障害がありながら生活する人々とその家族の、健康課題や生活課題を述べることができる。 ２.さまざまなライフステージにおける健康障害と保健医療福祉との連携について理解できる。 ３.さまざまな健康障害と保健医療福祉との連携について理解できる。 ４.ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの醸成に向けて人々と協働する地域社会づくりの必要性が理解できる。 ５.個から集団へのアプローチを通して、事業化、施策化を理解できる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス、国内における健康課題の変遷と動向 第 2 回 保健医療福祉の動向：地域医療改革と地域包括ケアシステム 第 3 回 健康の社会的決定要因・環境的決定要因 第 4 回 システムとしての地域社会 第 5 回 人々のつながり：ソーシャルネットワークソーシャルキャピタル 第 6 回 ライフステージ１：乳幼児期の健康障害:医療依存度の高い乳幼児 第 7 回 ライフステージ２：学童期の健康障害 第 8 回 ライフステージ３：成人期の健康障害 第 9 回 ライフステージ４：高齢者の健康障害 第 10 回 健康課題１：単身世帯の健康障害 第 11 回 健康課題２：ホームレス・生活困窮者と健康障害 第 12 回 健康課題３：がん・介護 第 13・14 回 多職種連携教育の現状（ゲスト） 第 15 回　乳幼児から高齢者までを包摂した地域包括ケア	
事前学習の内容 学習上の注意	提示する事前課題は、主体的に取り組み、指定の文献を精読してください。パートナーとしての地域で生活する人々と協働する活動、わが国の健康課題を踏まえた多機関・多職種との連携・協働に関する研究など、自身の研究分野に近い文献レビューを行い、レポートを準備してプレゼンテーションを行います。また、社会の動きに注意を払い、社会現象と地域看護を統合して考えることができるように学修を進めてください。	
本科目の関連科目	保健医療福祉システム特論、家族支援特論	
テキスト	使用しません。	
参考文献	重要文献を紹介し、適宜資料を配布します。	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），課題レポート（60%）によって総合的に評価します。	

□講義科目（共通科目）

科目名	国際フォレンジック看護学特論	２単位
担当者	長江　美代子	
テーマ	解決困難なグローバル課題に取り組むフォレンジック看護の国際事情	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①暴力犯罪　②フォレンジック看護　③人権侵害　④災害　⑤国際 ＜内容の要約＞ 暴力と虐待の被害者と加害者への特別なケアであるフォレンジック看護について、国際的な視点から理解を深める。具体的には、地域や国家間の紛争、テロ、災害、女性・子ども・高齢者等への暴力、犯罪、人身取引の背景と、被害者と加害者のケアについて学ぶ。受刑者や検死に関わる内容についてフォレンジックの対象として理解する。これらの研究・実践について学び、看護の役割と方向性について考察する。 ＜学習目標＞ １.フォレンジックという概念をグローバルな視点から理解し、フォレンジック看護を体系づけられた学問分野として捉えることができる。 ２.基礎となる理論・概念・モデルを学びフォレンジック看護の理解を深めることができる。 ３.暴力撲滅は地球規模で取り組むべき深刻なグローバル課題であることが認識できる。 ４.フォレンジック看護の実践範囲について具体的に説明できる。 ５.日本におけるフォレンジック看護の方向性と実践について考察できる。	
授業の進め方	第 １ 回 フォレンジック看護の定義と国際的な歴史的背景 第 ２ 回 基礎となる理論・概念・モデル、 第 ３ 回性暴力被害者支援の現状と課題　（ゲスト講師） 第 ４ 回 フォレンジック看護における法律・倫理・心理社会的課題 第 ５ 回 犯罪における法的システムとプロセス 第 ６ 回 フォレンジック看護学の教育体系及び研究の動向 第 ７ 回 対人関係における暴力の定義とフォレンジック看護 第 ８ 回　DV・子ども虐待・高齢者虐待・障害者虐待 第 ９ 回　フォレンジック看護の実践　（ゲスト講師） 第 １０回 集団としての暴力 第 １１回　人身取引、搾取、人権侵害 第 １２回　集団虐殺 第 １３回　災害フォレンジック看護 第 １４回 特別な領域でのフォレンジック看護実践（救急・矯正施設・メンタルヘルス・法的コンサルタント） 第 １５回 日本におけるフォレンジック看護の方向性と実践	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストや配布物は講義予定の内容に該当する箇所を事前に読んでおく。 講義には、質問・意見・感想を述べるなど、積極的に参加する。 学んだ理論を臨地におけるトピックスに適用し実践に生かす視点を持つ。	
本科目の関連科目	各看護学領域の特論科目、各看護学領域の実践論科目、各看護学領域の特論演習科目	
テキスト	加納尚美・李節子・家吉望み　編集／日本フォレンジック看護学会（2016)、フォレンジック看護：性暴力被害者支援の基本から実践まで、東京、医歯薬出版.	
参考文献	Constantino, R.E., Crane, P.A., & Young, S.E., *Forensic Nursing: Evidence-Based Principles and Practice*, Davis Company.	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション〔40%〕、課題〔60%〕 ＊提示する評価表の項目に沿って評価する。	

□講義科目（専門科目）

科目名	看護方法学特論	２単位
担当者	新美　綾子、小笠原　ゆかり、藤田　佳子	
テーマ	専門職としての看護職が活動する基盤には、多様な活動対象と状況に適した手法を選択し実現できる力量が必要である。本科目では、そうした健康行動科学を支えとして、看護の展開方法について理解を深め、専門職としてのより強い活動力を培う。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①健康行動と役割行動　②科学的分析と批判的思考　③看護教育　④看護技術　⑤看護管理 ＜内容の要約＞ 専門職である看護職の活動に必要な、多様な活動対象と状況に適した手法を選択し実現する力の基盤の１つとして、看護活動の対象者と看護者である人間に関する行動科学・脳科学的知見は重要である。それらを含めた学際的諸理論を活用して看護活動を分析し、効果検証方法や科学的根拠への理解を深め、その一連の過程を通して看護活動の在り方を探り、活動の方法としての各技術や管理について検討する。このように、看護の展開方法をより深く理解して今後の看護課題などを明らかにし、専門職としてのより強い活動力と新たな方法開発力を培う。 ＜学習目標＞ １.看護活動の対象者・看護者を、行動科学・脳科学など諸科学の成果を活用して生理的・心理的・社会的側面からの理解を深めるとともに、適切な行動変容へ導く手法も含む看護技術の効果評価を学修できる。 ２.個人・組織としての行動理論を基盤に看護管理の諸方法を理解し、今後の発展の方向性を考察できる。 ３.看護活動の思考過程でもある看護過程を健康行動的視点から理解を深めることができる。 ４.看護で行われる各基本的技術の原理を諸理論から理解し、今後の新たな手技の開発となりうる力を得ることができる。 ５.世界各国の看護活動の実態を知り、日本の看護との比較検討の中から、今後の日本の看護の在り方について考察し、討議できる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス　看護活動と人間の健康と行動 第 2 回 脳科学と行動科学と行動変容　看護活動方法を脳科学と行動科学で解析し理解する 第 3 回 行動理論と行動変容①　看護者も対象者も、より良い行動へ変容させる原理を理解する。 第 4 回 行動理論と行動変容②　同　上 第 5 回 看護過程の行動理論①　看護活動の基盤となる看護過程の思考に関して、行動理論や脳科学・認知科学・心理学・社会学・組織学など諸知識から検討を重ねる。 第 6 回 看護過程の行動理論②　同　上 第 7 回 看護技術の行動科学①　主要な看護技術を諸科学の理論から解析し、看護技術開発と研究の方向性と課題を考える。 第 8 回 看護技術の行動科学②　同　上 第 9 回 看護技術の行動科学③　同　上 第 10 回 世界の看護活動　世界各国の社会状況を反映した看護活動の現状を、日本と比較しながら理解する。 第 11 回 看護管理の行動科学①　個人管理・組織管理など看護管理の諸断面を行動科学から分析を加え、看護管理開発と研究の方向性と課題を考える。 第 12 回 看護管理の行動科学②　同　上 第 13 回 看護管理の行動科学③　同　上 第 14 回 看護活動とロボットの共存諸科学の発展と社会構造の変化に伴い看護界にも多様なロボットが導入されており、世界の動向と看護の在り方を探る。 第 15 回 看護方法という視点で捉えた看護活動の課題について討議し、自己の考察を深める。	
事前学習の内容 学習上の注意	各回の主題については、事前に調べて参加すると、より理解が深まるでしょう。それとは別に提示する課題については規定内でのレポートを求め、それは評価対象とします。	
本科目の 関連科目	看護方法学実践論、看護方法学特論演習、特別研究	
テキスト	未定	
参考文献	①井部俊子ほか「看護管理学習テキスト　第２版　第１～８巻」日本看護協会出版会. ②村中陽子ほか「学ぶ・試す・調べる　看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版. ③石井トクほか「医療安全　患者を護る看護プロフェッショナル」医歯薬出版.	
成績評価方法 と基準	課題提出 80%。プレゼンテーション 20%。60 点以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	看護方法学実践論	２単位
担当者	新美　綾子、小笠原　ゆかり	
テーマ	専門職としての看護職が実践する様々な技法の中でも日常生活援助と指導技術に焦点をおいて、それらケア技術の実証研究と開発研究を題材に分析検討を重ね、ケア技術の知識と理解を深めるとともに、ケア技術開発への基盤力を培う。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①日常生活支援技術　②教育指導技術　③技術効果検証　④技術開発研究 ⑤看護管理実践研究 ＜内容の要約＞ 様々な看護展開場面を題材として、特論で学修した諸理論を用いて深く分析し、看護展開の方法である実践の在り方・技術の捉え方・看護管理の進め方などを立体的複合的に検討し、看護活動そのものの在り方と今後の展望を考察する。ともすれば狭義の技法と捉え易い「方法」を、広義に捉え、看護活動の本質に迫ることにより、自身の看護論・実践論を明確にできる力を培う。 ＜学習目標＞ １.看護技術の効果を検討した国内外の研究成果を用いて、看護技術の科学的根拠と経験的根拠を探求することの意義を理解し、説明できる。 ２.看護技術の実践効果検証の諸方法について、国内外の研究成果を用いて理解し、説明できる。 ３.看護技術の検証方法の困難性と実践における必要性を理解し、説明できる。 ４.他の医療職種・専門職種の実践技術を知り、看護実践との比較検討の中から、今後の日本の看護実践の在り方について考察し、討議できる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス　これまでの看護実践とその効果検証について学ぶ。 第 2 回 ケア実践の検証①　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 3 回 ケア実践の検証②　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 4 回 ケア実践の検証③　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 5 回 ケア実践の検証④　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 6 回 指導技術の検証①　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 7 回 指導技術の検証②　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 8 回 指導技術の検証③　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 9 回 指導技術の検証④　既存の検証研究を用いて分析検討し、理解する。 第 10 回 実践技術の開発①　実践技術の開発について既存の開発研究を用いて理解する。 第 11 回 実践技術の開発②　実践技術の開発について既存の開発研究を用いて理解する。 第 12 回 実践技術の開発③　実践技術の開発について既存の開発研究を用いて理解する。 第 13 回 実践技術の開発④　実践技術の開発について既存の開発研究を用いて理解する。 第 14 回 他の学問領域の技術開発過程を知り、看護実践技術開発過程と比較検討する。 第 15 回 これからの看護実践技術開発について討議し、自己の考えを纏める。	
事前学習の内容 学習上の注意	各回の主題については、事前に調べて参加すると、より理解が深まるでしょう。それとは別に提示する課題については規定内でのレポートを求め、それは評価対象とします。	
本科目の関連科目	看護方法学特論、看護方法学特論演習、特別研究	
テキスト	未定	
参考文献	未定	
成績評価方法と基準	最終報告書 80%、２回の討議でのプレゼンテーション 20%。60 点以上を合格とする。	

□演習科目（専門科目）

科目名	看護方法学特論演習	４単位
担当者	新美　綾子、小笠原　ゆかり	
テーマ	特論・実践論で学修した看護技術・看護管理・看護教育を含む広義の看護方法に関して、学生個々が興味や関心を抱いた主題や疑問に焦点をおき、研究活動を進めていく方法への学生の理解を高め、専門職としての看護職が展開する看護方法を開発する基盤力を培う。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①看護技術　②技術検証　③技術開発 ＜内容の要約＞ 特論・実践論で学修した看護技術・看護管理・看護教育を含む広義の看護方法に関して、学生個々が興味や関心を抱いた主題や疑問に焦点をおき、その効果やメカニズムを検証するより絞込んだ既存文献を検討して更に深く絞り込んで研究課題を明確にしていく。そして解明に必要な生理機能的実験などを含む介入実験や各種の調査方法などの手法で追試するなど、研究活動を進めていく方法への学生の理解を高める。 ＜学習目標＞ １.看護方法の各種検証方法の実際を体験し、それぞれの特徴を踏まえて検証方法を決定できる知識を学修できる。 ２.看護活動に有益な看護方法の開発に適した方法を決定できる知識を学修できる。 ３.看護活動で用いる看護方法の検証や開発の研究を理解し、取り組む意欲と沈着で冷静な研究計画を立てるための基礎力を培うことができる。 ４.他の医療職種・専門職種の実践方法検証と方法開発について知り、看護の実践方法検証と方法開発に活用できる基礎力を養うことができる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス　既存の看護方法開発および検証研究の動向 第 2 回 看護方法の検証研究方法 第 3～10 回 看護方法の様々な実験的検証研究方法の特徴とその研究例 様々な実験的検証研究方法を学ぶ（人間工学的実験、心理学的実験、生理学的生化学的微生物学的検査、心電図・筋電図など生体検査、脳科学的検査など実験的検証研究方法の条件設定と結果分析の実際） 第 11～14 回 実験的検証研究方法の実際 第 15～19 回 看護方法の様々な非実験的検証研究方法の特徴とその研究例 様々な非実験的検証研究方法を学ぶ（各種質問紙調査法、各種面接調査法、参加観察調査法、など、非実験的検証研究方法の実施方法と結果分析の実際） 第 20～22 回　非実験的検証研究方法の実際 第 23 回 環境科学・ロボット科学・情報科学など他領域や他学問との看護方法の検証研究や開発研究における連携とその研究 第 24～26 回 他分野の方法の実際 第 27～28 回 看護方法の検証研究や技術開発に向けた研究計画案の作成 第 29～30 回 看護方法の検証・開発研究について討議し、自己の考えを纏める。	
事前学習の内容 学習上の注意	各回の主題については、事前に調べて参加すると、より理解が深まるでしょう。それとは別に提示する課題については規定内でのレポートを求め、それは評価対象とします。	
本科目の関連科目	看護方法学特論、看護方法学実践論、特別研究	
テキスト	未定	
参考文献	未定	
成績評価方法と基準	事前課題提出 30%。最終報告書 50%、討議でのプレゼンテーション 20%。60 点以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	成人看護学特論	２単位
担当者	白尾　久美子、大野　晶子	
テーマ	成人患者に対する看護実践への理論活用	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①成人期の発達特性　②急性期看護　③慢性期看護　④中範囲理論 ＜内容の要約＞ 健康問題を抱えた成人期にある人々とその家族を対象に、発達課題および生活者としての社会的状況をふまえ療養上の課題について理解を深め、さらに看護活動の基盤となる概念と理論の歴史的背景および理論構造を探求し、看護実践能力向上への確実な適用について追求する能力を培う。具体的には、急性期・慢性期にある成人の健康問題の特徴、セルフケア理論、病みの軌跡理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディーイメージ、悲哀・悲嘆について、成人看護学領域での研究成果をふまえながら、看護実践への具体的な適用について検討する。 ＜学習目標＞ １.様々な発達理論および現代の社会状況をふまえて成人への理解を深めることができる。 ２.成人患者の健康問題について多面的にとらえることができる。 ３.主要な理論について歴史的背景、理論構造に関して知識を修得することができる。 ４.主要な理論について看護実践への適用について検討することができる。	
授業の進め方	第 １ 回 オリエンテーション 第 ２ 回 成人期の発達特性および社会状況 第 ３ 回 成人患者の急性期の健康問題① 第 ４ 回 成人患者の慢性期の健康問題② 第 ５ 回 看護実践への具体的な適用：セルフケア理論① 第 ６ 回 看護実践への具体的な適用：セルフケア理論② 第 ７ 回 看護実践への具体的な適用：病みの軌跡理論① 第 ８ 回 看護実践への具体的な適用：病みの軌跡理論② 第 ９ 回 看護実践への具体的な適用：ストレス・コーピング① 第 １０回 看護実践への具体的な適用：ストレス・コーピング② 第 １１回 看護実践への具体的な適用：危機理論① 第 １２回 看護実践への具体的な適用：危機理論② 第 １３回 看護実践への具体的な適用：ボディーイメージ 第 １４回 看護実践への具体的な適用：悲哀・悲嘆① 第 １５回 看護実践への具体的な適用：悲哀・悲嘆②	
事前学習の内容学習上の注意	シラバスに基づき、講義内容に関する予習を行い講義に臨むこと。提示したテーマについて、講義とプレゼンテーションを交えながら展開する。	
本科目の関連科目	成人看護学実践論、成人看護学特論演習、看護教育特論、特別研究	
テキスト	使用しない	
参考文献	ダニエル・レビンソン(1978). ライフサイクルの心理学上下, 東京：講談社学術文庫. Anselm L. Strauss (著), J. Corbin (著), S. Fagerhaugh (著), Barney G. Glaser (著), D. Maines (著), B. Suczek (著), & その他(1984). 慢性疾患を生きる―ケアとクオリティ・ライフの接点, 東京：医学書院. リチャード・S・ラザルス, スーザン・フォルクマン(1984). ストレスの心理学[認知的評価と対処の研究], 東京：実務教育出版.	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション 20%、事前課題レポート 30%、最終レポート 50%により総合評価し、60点以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	成人看護学実践論	２単位
担当者	白尾　久美子、大野　晶子	
テーマ	成人患者に対する健康問題に適した看護実践	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①最新医療　②ヘルスアセスメント　③疼痛コントロール　④心理的援助技術 ⑤多職種チーム ＜内容の要約＞ 健康問題を抱えた成人期にある人々とその家族を対象に、最新の医療の動向をふまえ、より専門的でエビデンスに基づいた看護実践の修得に向けた知識と技術を学修し、看護のあり方と役割および専門性を検討できる力を培う。具体的には、治療法を中心とした最新医療の探求と、ヘルスアセスメント、疼痛コントロール、心理的援助技術、セルフマネジメントに向けた教育支援、成人看護学領域における多職種チームのあり方について、事例や成人看護学領域の文献を活用しながら修得し、看護実践能力を向上させる活用方法について検討する。 ＜学習目標＞ １.成人看護学領域に関わる最新の医療の動向について多角的にとらえ理解を深めることができる。 ２.適切な臨床判断に基づく、成人患者の状況に適した具体的な知識と技術について理解を深め、活用について説明できる。 ３.多職種チームの現状と課題を明確にし、成人看護領域における看護の役割を推考できる。	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション　治療法を含めた最新医療の動向① 第 2 回 治療法を含めた最新医療の動向② 第 3 回 ヘルスアセスメント① 第 4 回 ヘルスアセスメント② 第 5 回 ヘルスアセスメント③ 第 6 回 ヘルスアセスメント④ 第 7 回 疼痛コントロール① 第 8 回 疼痛コントロール② 第 9 回 心理的援助技術① 第 10 回 心理的援助技術② 第 11 回 セルフマネジメントに向けた教育支援① 第 12 回 セルフマネジメントに向けた教育支援② 第 13 回 多職種チーム① 第 14 回 多職種チーム② 第 15 回 成人看護学の課題	
事前学習の内容 学習上の注意	学習テーマについて、事前学習を行い講義に臨むこと。講義とプレゼンテーションを交えながら展開する。	
本科目の関連科目	成人看護学特論、成人看護学特論演習、看護教育特論、特別研究	
テキスト	使用しない	
参考文献	講義内で適宜紹介する	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション 20%、事前課題レポート 30%、最終レポート 50%により総合評価し、60点以上を合格とする。	

□演習科目（専門科目）

科目名	成人看護学特論演習	４単位
担当者	白尾　久美子、大野　晶子	
テーマ	研究テーマの追求	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①文献検索　②文献検討　③文献レビュー　④研究課題の明確化 ＜内容の要約＞ 成人期にある対象の多岐にわたる研究課題の中から、明らかにしたい事象について、ディスカッションや国内外の文献の系統的なレビューを通して、取り組むべき課題を明確にしていく研究プロセスについて学修する。研究課題の焦点化に向けて、関連のある施設の見学や専門家とのディスカッションにより、知見を広め、研究計画の立案に向けた基盤形成を行う。 ＜学習目標＞ １.成人看護学領域に関わる特徴的な研究と課題について理解を深め適切に説明できる。 ２.研究課題を明確にするために、国内外の文献検討が適切に実施できる。 ３.文献レビューにより研究課題を明確化し、研究方法に関する知識を深めることができる。 ４.研究課題に関連した演習や実習を通して、研究計画の推考につなげることができる。	
授業の進め方	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 成人領域に関する文献検討（発表と討議） 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 研究疑問に関する文献検討・研究課題の明確化（発表と討議） 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 研究課題に関わる演習や実習 第 23 回 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 30 回 研究課題に関する研究方法の検討(発表と討議)	
事前学習の内容 学習上の注意	自身の研究課題の明確化に向けて事前に文献検索を行い、系統的な文献レビューに取組み講義に臨むこと。授業には積極的に参加し、ディスカッションを通して自身の考えを深める。	
本科目の関連科目	成人看護学特論、成人看護学実践論、看護学研究方法特論Ⅰ、看護学研究方法特論Ⅱ、特別研究	
テキスト	使用しない	
参考文献	講義内で適宜紹介する	
成績評価方法と基準	文献検討に関するプレゼンテーション 70%、施設見学・研修および専門家へのインタビューに関するレポート 30%により総合評価し、60 点以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	精神看護学特論	２単位
担当者	古澤　亜矢子、初田　真人、加茂　登志子、服部　希恵	
テーマ	リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケア	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①メンタルヘルスケア　②概念と理論　③リエゾン　④倫理と暴力　⑤ケアの基準 ＜内容の要約＞ リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケアについて、概念と理論を学ぶ。対象のライフステージ（乳幼児、小児、青年、成人、老年）に応じたメンタルヘルスケアについて検討する。 ＜学習目標＞ 1.　各講義の学びからリエゾン・コミュニティメンタルヘルスの概念や理論が理解できる。 2.　各講義の学びからリエゾン・コミュニティメンタルヘルスの課題について説明できる。 3.　各講義の学びからリエゾン・コミュニティメンタルヘルスの支援の特徴を説明できる。	
授業の進め方	第 １ 回　講義ガイダンス/リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケアの必要性と課題 第 ２ 回　トラウマインフォームドケア 第 ３ 回　メンタルヘルス予防と支援（職場） 第 ４ 回　メンタルヘルス予防と支援（マインドフルネス） 第 ５ 回　メンタルヘルス予防と支援（暴力の構造と対処） 第 ６ 回　メンタルヘルス予防と支援（リカバリー＆エンパワメント） 第 ７ 回　メンタルヘルス予防と支援（学校：ゲスト講師） 第 ８ 回　メンタルヘルス予防と支援（発達障がい支援：ゲスト講師） 第 ９ 回　メンタルヘルス予防と支援（ホームケア） 第 １０回　メンタルヘルス予防と支援（ホームケア） 第 １１回　養育支援学（女性・子どもとその家族の精神医療） 第 １２回　養育支援学（女性・子どもとその家族の精神医療） 第 １３回　養育支援学（女性・子どもとその家族の精神医療） 第 １４回　養育支援学（女性・子どもとその家族の精神医療） 第 １５回　心理的な評価尺度の紹介、今後の課題と展開	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストや講義資料配布物は事前に準備をする。 講義には、質問・意見・感想を述べるなど、積極的に参加する。 講義は、ハイフレックスで対面・ライブオンライン形式が中心となる。	
本科目の関連科目	精神看護学実践論、精神看護学特論演習、特別研究	
テキスト	加茂登志子：PCITから学ぶ子育て,東京：小学館	
参考文献	・DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 東京: 医学書院. ・ベッセル・ヴァン・デア・コーク：身体はトラウマを記録する、脳・心・体のつながりと回復のための手法、東京：紀伊國屋書店	
成績評価方法と基準	ディスカッション〔40%〕、課題〔60%〕 ＊提示する評価表の項目に沿って評価する。	

□講義科目（専門科目）

科目名	精神看護学実践論	２単位
担当者	古澤　亜矢子、長江　美代子	
テーマ	高度な看護実践ためのアセスメント、臨床判断、介入	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①アセスメント ②診断概念と理論 ③心理社会的療法 ④看護実践 ⑤メンタルヘルス評価 ＜内容の要約＞ 個人･集団･家族への援助に関して、討論、模擬事例、ロールプレイ、視覚的教材、体験学習を通して、複雑な場面でのアセスメントと対人的関係技術の適用を含めた、高度な看護実践における活用・応用力を養う。具体的には、さまざまな症状を持つ個人とその家族への認知行動療法の適用および訪問支援の模擬事例演習、家族へのシステムズアプローチ理論の展開、集団特性理解としてグループによる体験トレーニングを含む。学生が興味を持つ現象、援助について、文献検討で概念付けし、系統的に捉え理解する。 ＜学習目標＞ １.精神障がいの病因・徴候・経過と予後についてライフスパンにおいて捉え理解できる。 ２.DSM-V や ICD-11 などの精神障害診断基準について比較検討し､看護の視点から評価できる。 ３.精神状態を評価する様々な評価尺度の活用方法について理解できる。 ４.身体医学的治療、薬物療法、心理社会的療法について説明できる。 ５.心理社会的療法について、概念・理論・研究・実践の基本を理解できる。 ６.療法の各ライフステージへの適用、適切な看護介入について考察できる。	
授業の進め方	第 １ 回　リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケア実践 第 ２ 回　リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケア実践（発表と討議） 第 ３ 回　リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケア実践（発表と討議） 第 ４ 回　リエゾン・コミュニティメンタルヘルスケア実践（発表と討議） 第 ５ 回　Alcoholism-related family Line in the UK（ゲスト講師） 第 ６ 回　Alcoholism-related family Line in the UK（ゲスト講師） 第 ７ 回　精神状態のアセスメント(Mental Status Examinations) 第 ８ 回　社会・心理行動アセスメント（性暴力被害とトラウマ基本編） 第 ９ 回　社会・心理行動アセスメント（性暴力被害とトラウマケース編） 第 １０回　社会・心理行動アセスメント（子どもと家族） 第 １１回　社会・心理行動アセスメント（子どもと家族） 第 １２回　社会・心理行動アセスメント（子どもと家族） 第 １３回　社会・学習理論　(PCIT) 第 １４回　認知行動療法、学習理論　(PCIT とケース体験) 第 １５回　ライフスパンを幅広く包括する看護介入の重要性について	
事前学習の内容 学習上の注意	講義に向けて、テキストや配布物は事前に読んでおく。 講義には、質問・意見・感想を述べるなど、積極的に参加する。 学んだ理論や知識を実践に生かす視点を持つ。	
本科目の関連科目	精神看護学特論、精神看護学特論演習、家族支援特論、特別研究	
テキスト	必要時に提示する	
参考文献	斎藤正彦他（2022)：地域精神医療、リエゾン精神医療、精神科救急医療、中山書店 武藤教志：他科に誇れる精神科看護の専門技術, Mental Status Examination、精神看護出版 Gemma Stacey et al: Placement Learning in Mental Health Nursing: A guide for students in practice, Elsevier. Mike Slade et al: Wellbeing, Recovery, Mental health, Cambridge University Press. S. シュテファン（2016）：精神科治療薬の考え方と使い方第３版、 仙波 純一（翻訳）メディアカルサイエンスインターナショナル. 花丘ちぐさ他：なぜ私は凍りついたのか、春秋社.	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%)、課題レポート（60%）	

□演習科目（専門科目）

科目名	精神看護学特論演習	４単位
担当者	古澤　亜矢子	
テーマ	文献レビューや演習を通して、メンタルヘルス看護に関する知見を深め、研究プロセスに沿って課題に取り組む基盤を習得する。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①精神看護学　②文献クリティーク　③実践活動　④研究課題の明確化 ＜内容の要約＞ 国内外の文献の系統的レビューや実践活動を通して、各自が探求したい課題を選定する。選定した課題を焦点化し、適切な研究方法を選び、実施可能な研究計画書の立案に取り組む。 ＜学習目標＞ １.家族・職場・医療・地域社会において、人との関係性によって生じる精神的な健康問題や精神病理に関する課題について理解を深め、説明できる。 ２.国内外の先行研究について適切に文献クリティークできる。 ３.各自の課題に関わる実践活動、演習、実習を通して理解を深め、研究計画につなげることができる。	
授業の進め方	第１回～第８回：精神看護及び保健の領域に関する課題について、文献クリティーク（発表と討議） 第９回～第15回：精神看護及び保健の領域の研究の動向と各自の研究課題の明確化、または演習（PCIT）	第１回～第８回：精神看護及び保健の領域に関する課題について、文献クリティーク（発表と討議） 第９回～第15回：精神看護及び保健の領域の研究の動向と各自の研究課題の明確化、または演習（PCIT）
事前学習の内容 学習上の注意	PCIT(Parent-Child Interaction Therapy実施に向けての準備ができる) 演習場所は、大学の行動観察室もしくは連携病院で実施。	
本科目の関連科目	精神看護学特論、精神看護学実践論、国際フォレンジック看護学特論	
テキスト	講義内で適宜紹介する。	
参考文献	講義内で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	ロールプレイ演習（50%）、プレゼンテーション（25%）、課題レポート（25%）	

□講義科目（専門科目）

科目名	地域看護学特論	２単位
担当者	水谷　聖子、森　礼子	
テーマ	地域看護をささえるさまざまな理論と研究	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①地域看護診断　②ヘルスプロモーション　③プライマリ・ヘルス・ケア ④ソーシャルキャピタル　⑤多職種連携・協働　⑥健康格差 ＜内容の要約＞ 地域看護(在宅看護・公衆衛生看護)における、個人・家族や集団を理解し、住民と協働する地域看護について学ぶ。さらに地域看護における主要な概念と理論を理解し、看護実践の適用について学ぶ。 具体的には、地域看護活動で重要な、保健医療福祉の現状、地域看護の変遷、在宅看護や公衆衛生看護の動向、国際生活機能分類の構成要素と相互の働き、コミュニティー・アズ・パートナーモデル、プリシード・プロシードモデル、様々な保健行動理論、介護予防、健康格差、多職種連携などについて、地域看護学領域の国内外の文献検討し、討議を通して学びを深める。 ＜学習目標＞ １.日本の保健医療福祉の動向、社会疫学データをふまえ現状と課題について理解し、考察できる。 ２.地域看護を取り巻く保健医療福祉施策について歴史的変遷をふまえ理解し、考察できる。 ３.地域看護で活用可能なさまざまな理論構造を理解し、深めることができる。 ４.日本におけるさまざまな健康課題・生活課題について、主要な理論をふまえ看護実践や研究への適用について検討することができる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス、受講者の実践活動報告 第 2 回 日本の保健医療福祉の動向 第 3 回 地域看護の変遷 第 4 回 国際生活機能分類（ICF） 第 5 回 コミュニティー・アズ・パートナーモデル 第 6 回 プロシード・プロシードモデル 第 7 回 ストレングスモデル 第 8 回 ポピュレーションアプローチ（ゲスト） 第 9 回 ハイリスクアプローチ（ゲスト） 第 10 回 日本の健康課題①. 健康格差 第 11 回 日本の健康課題②：こどもの貧困 第 12 回 日本の健康課題③：ホームレス、生活困窮者 第 13 回 日本の健康課題④：在日外国人 第 14 回 日本の健康課題⑤：多機関、多職種による連携・協働 第 15 回 日本の地域包括ケア、地域看護活動の将来展望　まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	・講義、プレゼンテーション、討議を交えながら展開する。 ・シラバスに基づき該当する内容に関する予習を行い、疑問点を明確にして授業に臨み、授業後は、内容の理解に併せて不明確な内容については再度学習すること。	
本科目の関連科目	地域看護学実践論、地域看護学特論演習、特別研究	
テキスト	使用しません。	
参考文献	・ﾘｻﾞﾍﾞｽ T.ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ他著、金川克子・早川和生監訳(2014)：コミュニティ　ｱｽﾞ　パートナー　地域看護学の理論と実際　第２版,医学書院 ・ロビン・ライス編著(1999)：在宅看護論　基本概念と実践，医学書院 ・宗像恒次(1996)：最新行動科学からみた健康と病気，メヂカルフレンド社 ・小島操子(2013)：看護における危機理論・危機介入，金芳堂 ・南裕子，稲岡文昭監修(1997)：セルフケア概念と看護実践，へるす出版 ・上田敏(2005)：ICF の理解と活用，きょうされん ・野島佐由美監訳(1996)：家族看護学　理論とアセスメント，へるす出版 ・その他，国内外の重要文献の紹介し、適宜資料を配布します。	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。	

□講義科目（専門科目）

科目名	地域看護学実践論	２単位
担当者	水谷　聖子、森　礼子	
テーマ	地域看護の展開と健康支援に関する地域看護分野の研究	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①地域看護の倫理　②ポピュレーションアプローチ　③ハイリスクアプローチ ④社会疫学と地域看護　⑤エスノグラフィック・アプローチ ＜内容の要約＞ 地域社会で生活している人々のライフステージ、価値観や健康課題をふまえ、人々の健康の保持増進や予防、生活の質の向上に向けたより専門的な看護実践の知識と技術を学修する。また、最近の保健医療福祉動向や地域における健康課題の現状を踏まえ、看護の実践現場への活用について専門性を追究する。 具体的には、障害がありながら地域で生活する人々、子育て、介護予防、生活困窮者や在日外国人支援や産業看護などの文献を活用し、看護実践への活用について検討する。 ＜学習目標＞ １.地域看護学領域の実践報告や研究論文を精読し、文献クリティークができる。 ２.自身の関心領域を多角的にとらえることができる。 ３.地域看護実践や研究を通して、地域看護(在宅看護・公衆衛生看護)の特徴的な能力について考察できる。 ４.地域看護を担う看護職と多職種との連携・協働を理解し、地域看護を担う看護師、保健師の専門性を理解できる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス　自身の関心領域の発表 第 2 回 地域看護活動の展開①：ハイリスクアプローチ 第 3 回 地域看護活動の展開②：ポピュレーションアプローチ 第 4 回 地域看護活動研究①：社会疫学と地域看護 第 5 回 地域看護活動研究②：エスノグラフィック・アプローチ 第 6 回 地域看護活動研究③：子育て支援① 第 7 回 地域看護活動研究④：子育て支援②（ゲスト） 第 8 回 地域看護活動研究⑤：健康づくり 第 9 回 地域看護活動研究⑥：介護予防 第 10 回 地域看護活動研究⑦：障害を抱えながら地域で生活する人々① 第 11 回 地域看護活動研究⑧：障害を抱えながら地域で生活する人々②（ゲスト） 第 12 回 地域看護活動研究⑨：生活困窮者（発表と討議） 第 13 回 地域看護活動研究⑩：在日外国人支援（発表と討議） 第 14 回 地域看護活動研究⑪：産業看護（発表と討議） 第 15 回 地域看護活動と地域看護研究のまとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	・講義、プレゼンテーション、グループによる討議で展開します。主体的に参加してください。 ・パートナーとしての地域と協働する活動、わが国の健康課題について事前レポートを準備してプレゼンテーションを行う。 ・社会の動きに注意を払い、社会現象と地域看護を統合して考えることができるように学修を進める。	
本科目の関連科目	地域看護学特論、地域看護学特論演習、特別研究	
テキスト	使用しません。	
参考文献	国内外の重要文献の紹介し、適宜資料配布を行います。	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。	

□演習科目（専門科目）

科目名	地域看護学特論演習	４単位
担当者	水谷　聖子、森　礼子	
テーマ	地域看護実践から地域看護研究へ、地域看護研究から地域看護実践へ	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①文献レビュー　②研究領域への関心と理解　③研究課題の明確化 ＜内容の要約＞ 行政、訪問看護ステーション、医療機関、福祉機関、企業（事業所）やNPO法人など地域で行われている看護実践を通して明らかにしたい事象について、系統的な文献レビューを行い討議を通して理解する。取り組む研究課題を明確にし、研究計画立案の研究プロセスを学修する。また、地域看護(在宅看護、公衆衛生看護）の関連した実践のフィールドワークや専門家との意見交換と討議を通して深く理解し、研究課題に活かせるよう検討する。 ＜学習目標＞ １.適切な文献検索を行い、文献検討ができる。 ２.関心分野の保健医療福祉事業の実際を理解し、地域を単位としたケアシステム、ケースマネジメント、ソーシャルキャピタルなどの関連概念を理解できる。 ３.地域看護学研究のプロセス、方法、結果の導き方について理解できる。 ４.関心分野の保健医療福祉事業の実際についてフィールドワークを行い、専門家へのインタビューや見学を通して知見を広め、多角的視点から自身の関心領域について考えることができる。 ５.関連文献に関して系統的に文献レビューやフィールドワークの実際をふまえ、自身の研究課題の焦点化を行い、研究方法、分析方法が理解できる。	
授業の進め方	第 1 回 自身の関心領域に関する報告① 第 2 回 自身の関心領域に関する報告② 第 3 回 ケースマネジメントモデル 第 4 回 文献検討① 第 5 回 文献検討② 第 6 回 文献検討③ 第 7 回 文献検討④ 第 8 回 コミュニティマネージメントモデル 第 9 回 文献検討⑤ 第 10 回 文献検討⑥ 第 11 回 文献検討⑦ 第 12 回 文献検討⑧（ゲスト） 第 13 回 文献検討⑨ 第 14 回 研究課題の明確化① 第 15 回 研究課題の明確化② 第 16 回 フィールドワーク計画① 第 17 回 フィールドワーク計画② 第 18 回 フィールドワーク① 第 19 回 フィールドワーク② 第 20 回 フィールドワーク③ 第 21 回 フィールドワーク④ 第 22 回 フィールドワーク⑤（ゲスト） 第 23 回 フィールドワーク報告① 第 24 回 フィールドワーク報告② 第 25 回 研究計画書の作成① 第 26 回 研究計画書の作成② 第 27 回 研究計画書の作成③ 第 28 回 研究計画書の作成④ 第 29 回 研究計画書の発表① 第 30 回 研究計画書の発表② 地域看護研究のまとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	・講義、プレゼンテーション、グループによる討議で展開します。主体的に参加してください。 ・自身の関心領域に関する健康事象と看護に関する事前レポートを準備してプレゼンテーションを行います。 ・フィールドワーク参加の目的、方法、日時など計画書を作成します。実施後はプレゼンテーションを行います。 ・自身の関心領域に関する文献やフィールドワークを通して視野を広く持つようにしてください。 ・適宜、教員のスーパーバイズを受けながら取り組んでください。	
本科目の関連科目	地域看護学特論、地域看護学実践論、看護学研究方法特論Ⅰ、特別研究	
テキスト	使用しません	
参考文献	国内外の重要文献の紹介し、適宜資料を配布します。	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション（40%），レポート課題（60%）によって総合的に評価します。	

□講義科目（専門科目）

科目名	老年看護学特論	２単位
担当者	長砂　順子	
テーマ	高齢者看護に関する研究を実践するために必要な概念・理論の理解を深め、倫理的課題について考える。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①高齢者看護　②高齢者　③家族　④概念･理論 ⑤倫理的課題　⑥文献クリティーク ＜内容の要約＞ 高齢者看護に関する研究を実践するために必要な概念・理論を、健康生涯を持つ高齢者やその家族を対象とした研究、および介護施設（医療施設を含む）における看護ケアに関する研究を通して理解を深める。また、高齢者に関する倫理的課題について考察する。具体的には、自己決定、セルフケア、レジリエンス、エンパワーメント、自己効力感、パーソンセンタードケア、エイジズム、高齢者虐待、身体拘束、セクシュアリティなどに関して書かれた文献を使ってディスカッションすることにより理解を深める。それらの概念・理論の中から興味あるものを選び、その概念・理論をどのように高齢者看護に適用するのかについて検討し、プレゼンテーションする。 ＜学習目標＞ １.高齢者看護に関する研究を実践するために必要な概念・理論について理解を深めることができる。 ２.高齢者看護に関する倫理的課題について考察することができる。 ３.高齢者看護に関する研究論文のクリティークができる。 ４.興味ある概念・理論を活用し、プレゼンテーションをすることができる。	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション/高齢者と家族看護における課題 第 2・3回 高齢者看護に適用する理論・概念：エンパワメント（討議と発表） 第 4・5回 高齢者看護に適用する理論・概念：ストレングスモデル（討議と発表） 第 6・7回 高齢者看護に適用す理論・概念：レジリエンス（討議と発表） 第 8・9回 高齢者看護に適用する理論・概念：スピリチュアル・ケア（討議と発表） 第 10・11 回 高齢者看護に適用する理論・概念：セルフケア（討議と発表） 第 12・13 回 高齢者看護に適用する理論と概念：コンフォート理論関する倫理的課題：セクシュアリティ（発表と討議） 第 14 回 高齢者看護における倫理的課題とその対応（発表と討議） 第 15 回 興味のある高齢者看護に関する概念・理論を用いたプレゼンテーション	
事前学習の内容学習上の注意	講義内容について予習し、活発にディスカッションができる準備をして講義に臨むこと	
本科目の関連科目	看護学研究方法特論Ⅰ、看護理論特論、家族支援特論、老年看護学実践論、 老年看護学特論演習、特別研究	
テキスト	特に指定しない	
参考文献	講義の中で随時紹介、提示する。	
成績評価方法と基準	ディスカッション(40%)、プレゼンテーション(40%)、課題レポート(20%)により評価する。	

□講義科目（専門科目）　※2025 年度は閉講

科目名	老年看護学実践論	２単位
担当者		
テーマ		
科目のねらい		
授業の 進め方		
事前学習の内容 学習上の注意		
本科目の 関連科目		
テキスト		
参考文献		
成績評価方法 と基準		

□演習科目（専門科目）　※2025 年度は閉講

科目名	老年看護学特論演習	４単位
担当者		
テーマ		
科目のねらい		
授業の 進め方		
事前学習の内容 学習上の注意		
本科目の 関連科目		
テキスト		
参考文献		
成績評価方法 と基準		

□講義科目（専門科目）

科目名	ウィメンズヘルス看護学特論	２単位
担当者	岡田　由香、大橋　幸美	
テーマ	ウィメンズヘルスの基本的知識、女性の生涯の性と生殖の健康支援について理解し、対象の権利と意思決定を尊重した専門職としての課題やそれに役立つ研究課題を主体的に探求する。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①ウィメンズヘルス　②リプロダクティブヘルス/ライツ　③セクシュアリティ ④母子保健・医療・福祉 ＜内容の要約＞ ウィメンズヘルスの対象となる女性やその家族について保健医療福祉の動向をふまえ、女性の生涯の性と生殖の健康支援についての健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワーメントできる看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題の主体的探究力を培う。 ＜学習目標＞ １.母子保健・医療・福祉における女性の生涯の性と生殖の健康支援について、基本的考え方や知識を学び、今後の課題や展望について説明できる。 ２.女性の生涯の性と生殖の健康支援に役立つ研究への関心と理解を深め、自己の研究課題について、研究計画に反映できる。	
授業の進め方	第１回　ガイダンス、女性のウエルネス・ケア入門 第２回　女性のライフスパンにおける特有なウエルネス課題　思春期から成人期初期の女性 第３回　女性のライフスパンにおける特有なウエルネス課題　中年期の女性 第４回　女性のライフスパンにおける特有なウエルネス課題　女性の健康的な加齢 第５回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　特別な女性集団のウエルネス 第６回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進 身体組成：運動と栄養による健康の増進 第７回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　オーラルヘルス 第８回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　女性のレジリエンス セルフケア：ヒーリングエネルギーとその他の補完的療法 第９回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　女性とハーブ療法 第 10 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進 女性の生涯にわたるウエルネスと病気の予防に向けた薬理学的アプローチ 第 11 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進 ヒーリングアーツ：ピラティスの動き 第 12 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　ヒーリング環境 第 13 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　心と身体を癒す関係性 第 14 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　健康的な睡眠の促進 第 15 回　女性のライフスパンにおけるウエルネスの促進　安らかな最期 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	予習：事前に講義のテーマについて、テキスト及び参考書、既存文献を熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 担当する内容はプレゼンテーションを行い、ディスカッションによりすすめる。 ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えについて広めかつ深める。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。	
本科目の関連科目	保健医療福祉システム特論、看護理論特論、ウィメンズヘルス看護学実践論、 ウィメンズヘルス看護学特論演習、特別研究	
テキスト	エレン・F・オルシャンスキー：編著，高橋眞理、グレンジャー知子：監訳， ウィメンズヘルスとウエルネス　ライフスパンの視点からのアプローチ．ゆう書房．2017.	
参考文献	授業で適宜紹介する	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション、ディスカッションの内容(60%)　最終レポート(40%)により総合的に評価する。ディスカッションやレポートは各自の発言内容、記述内容での文章表現、根拠性、論理性、明確さ、説得力、問題発見等を評価の視点とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	ウィメンズヘルス看護学実践論	２単位
担当者	岡田　由香、大橋　幸美	
テーマ	女性のライフスパンやマタニティサイクルに対応した女性の健康増進を図るため、対象を中心に据えたトータルなケアが提供できるための相談、教育、援助活動を学ぶ。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①ウィメンズヘルス　②ウーマンセンタードケア　③多職種連携 ④女性のライフスパンに対応した支援　⑤マタニティサイクルに対応した支援 ＜内容の要約＞ ウィメンズヘルスの対象となる女性やその家族について保健医療福祉の動向をふまえ、女性の生涯の性と生殖の健康支援についての健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワーメントできる看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題の主体的探究力を培う。 マタニティサイクル各期における女性の生む力をひきだし、自然で安心な根拠に基づいた援助方法について理解を深め、他職種との連携やソーシャルサポートについての必要な知識の習得を図り、自らの看護実践能力を高める。 具体的には、各講義のテーマについて既存文献検討や受講生の経験などを通して深く検討する。 ＜学習目標＞ １.ライフスパンやマタニティサイクルに対応した女性の健康増進について、基本的考え方や知識を学び、看護の専門的機能について理解し、説明できる。 ２.対象を中心に据えたトータルなケアが提供できるための実践方法について、多職種連携の下での保健・医療・福祉サービスへの貢献と指導的役割が理解できる。	
授業の進め方	第 1 回　ガイダンス、女性の健康と歴史，基本理論 第 2 回　働く女性の健康 第 3 回　女性の健康とプレコンセプションヘルス，ヘルスプロモーション 第 4 回　女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ 第 5 回　女性の健康とセクシュアリティ 第 6 回　女性の健康とヘルスアセスメント 第 7 回　女性の健康とメンタルヘルス 第 8 回　女性の健康と倫理、法律 第 9 回　女性の健康とグローバリゼーション 第 10 回　女性の健康と文化 第 11 回　女性の健康と医療経済 第 12 回　科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン ドゥーラと豊かな出産体験 第 13 回　エビデンスに基づく助産ガイドライン 第 14 回　周産期母子医療システム，産後ケア 第 15 回　地域子育て包括支援とネットワーク活動 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	既存文献などをとおして講義とディスカッション（状況によってはプレゼンテーション）によりすすめる。 事前に講義のテーマについて自己学習したうえで望み、ディスカッションには積極的に参加し、自分の考えについて広めかつ深める。	
本科目の関連科目	家族支援特論、ウィメンズヘルス看護学特論、ウィメンズヘルス看護学特論演習、特別研究	
テキスト	指定しない	
参考文献	授業で適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション、ディスカッションの内容(60%)　最終レポート(40%)により総合的に評価する。ディスカッションやレポートは各自の発言内容、記述内容での文章表現、根拠性、論理性、明確さ、説得力、問題発見等を評価の視点とする。	

□演習科目（専門科目）

科目名	ウィメンズヘルス看護学特論演習	４単位
担当者	岡田　由香、大橋　幸美	
テーマ	ウィメンズヘルス領域に関する重要な課題について文献講読や先駆的な実践活動をとおして自己の専攻領域における専門性を深めると同時に、研究計画作成の基盤となる知識や技術を習得する。	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①ウィメンズヘルス　②先駆的実践活動　③研究課題・計画の明確化 ＜内容の要約＞ ウィメンズヘルス領域に関する重要な研究課題を中心に文献講読を行い、自己の専攻領域における専門性を深めると同時に、研究課題や研究計画を明確にする。具体的には、研究論文の読み方を再度学修するとともに、ウィメンズヘルス領域に関する重要な研究課題を中心に文献講読とディスカッションを行い、研究計画作成の基盤となる知識や技術を習得する。 また、国内外で先駆的な活動をしている病院や助産院における実践活動の見学や研修の機会に参加し、自己の研究課題を探求する。 ＜学習目標＞ １.自己の専攻領域における看護の独自性とグローバルな視点から専門性を深めると同時に、科学的・論理的な視点で研究課題や研究方法を明確にすることができる。 ２.国内外で先駆的な活動をしている病院や助産所等における実践活動をとおして、自己の研究課題を倫理的な判断に基づいて明確にすることができる。	
授業の進め方	第 1 回 ガイダンス、研究論文の読み方 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 （ウィメンズヘルス領域に関する重要な研究課題を中心に文献講読とディスカッション） 第 12 回 自らの研究疑問に関する文献検討 第 13 回 自らの研究疑問に関する文献検討 第 14 回 研究課題の明確化 第 15 回 研究課題の明確化 第 16 回 研究課題に関する文献検討 第 17 回 研究課題に関する文献検討 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 （研究課題に関する実践活動の見学・研修） 第 30 回 実践活動のふりかえり、まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	第 1 回から第 15 回までは学生各自が事前にレジメを作成、配布し、プレゼンテーションの準備をしたうえで臨むこと。プレゼンテーション、ディスカッションに積極的に参加し、各自の研究内容・方法について視野を広める。 第 16 回から第 30 回までは、各自の研究計画に従って見学・研修等により新たな知識を得て研究を推進すること。また、施設の指導者による指導および教員のスーパーバイズのもと行い、個人情報の扱いに関しては、個人情報の扱いに関するガイドラインに準じる。	
本科目の関連科目	看護学研究方法特論Ⅰ、看護学研究方法特論Ⅱ、ウィメンズヘルス看護学特論、 ウィメンズヘルス看護学実践論、特別研究	
テキスト	指定しない	
参考文献	授業で随時紹介する	
成績評価方法と基準	プレゼンテーション，ディスカッションの内容（40%） 見学・演習レポート(40%)　自己評価（20%）により総合的に評価する。 各自が授業に用いた資料やレポートの記述内容および発言内容での文章表現、根拠性、論理性、明確さ、説得力、問題発見等を評価の視点とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	小児看護学特論	２単位
担当者	柴　邦代	
テーマ	小児看護を取り巻く現状と課題に関する概要	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①小児医療・小児看護の現状と課題　②発達理論　③小児看護のトピックス ④小児看護学研究の特徴　⑤小児看護学領域における倫理的課題 ＜内容の要約＞ 発達途上にある小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論を深く学び、理解を深めるとともに、小児看護の実践現場で遭遇するさまざまな子どもの健康上の問題や発達環境にかかわる問題などについて、既存の文献をもとに、子ども本人および家族、さらには地域や社会の視点から広くとらえて学修する。 また、最近の小児看護学領域の研究の動向や、研究を進める上での倫理的課題など、小児看護学研究の特徴についての理解を深め、自らの研究遂行の基盤を形成する。 ＜学習目標＞ １.小児医療・小児看護の現状と課題について理解を深め、考察できる。 ２.小児の発達に関する基礎的理論について学修し、説明できる。 ３.子どもの健康上の問題や発達環境にかかわる問題などについて広く学修し、考察できる。 ４.小児看護学領域における倫理的課題を理解し、実践や研究遂行に反映できる。	
授業の進め方	第 1 回 小児医療の変遷と少子高齢社会における課題 第 2 回 小児看護学の変遷と我が国における小児看護の役割と課題 第 3 回 小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論（発表と討議）① 第 4 回 小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論（発表と討議）② 第 5 回 小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論（発表と討議）③ 第 6 回 小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論（発表と討議）④ 第 7 回 小児の身体的・精神的・社会的発達に関する基礎的理論（発表と討議）⑤ 第 8 回～第 12 回　臨床現場で遭遇する小児看護の問題に関わる文献的考察（発表と討議） ・小児に対する説明と同意 ・小児に対する治療処置と抑制 ・小児の生活環境の安全性と事故予防 ・乳幼児虐待と家族 ・小児看護における専門性と技術　など 第 13 回 小児看護学研究の特徴と動向（発表と討議） 第 14 回 小児と家族を対象とする研究における倫理的課題（発表と討議） 第 15 回 小児看護学の課題と展望についての全体討議とまとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	小児看護学実践論、小児看護学特論演習、特別研究	
テキスト	特に指定しない。	
参考文献	各回に、適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、文献発表(30%)・最終課題レポート(40%)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□講義科目（専門科目）

科目名	小児看護学実践論	２単位
担当者	柴　邦代	
テーマ	慢性的な健康問題を有する子どもと家族への具体的援助	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①小児の保健医療福祉制度　②慢性的な健康問題　③具体的援助方法 ＜内容の要約＞ 発達途上にある小児が順調に成長発達を遂げるためには、小児本人の生得的素因はもとより、彼らを取り巻くさまざまな人的・物的環境も不可欠である。なかでも、種々の慢性的な健康問題を有しながら社会で生活する子どもたちに対しては、その家族をも含めた適切な援助や支援体制が保障されなければならない。本科目では、慢性疾患や先天性の疾患やしょうがいなどを有しながら生活する子どもたちへの具体的援助の方法について、既存の文献をもとに学修し、理解を深めるとともに、実践現場での活用についての提案につなげる。 ＜学習目標＞ １.小児の発達に影響を及ぼす環境について理解を深め、説明できる ２.慢性的な健康問題を有する子どもの病態や発達の視点から理解を深め、説明できる。 ３.慢性的な健康問題を有する子どもと家族の生活ニーズについて分析し、説明できる。 ４.具体的な支援に関する知識・技術を学修し、活用について考察できる。 ５.具体的な支援に関する課題について理解し、今後に向けての考察ができる。	
授業の進め方	第 1 回 小児看護領域における保健・医療・福祉の役割と課題 第 2 回 慢性的な健康問題を有する子どもと家族の特性について 第 3 回 慢性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）① 第 4 回 慢性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）② 第 5 回 慢性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）③ 第 6 回 様々な障害を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）① 第 7 回 様々な障害を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）② 第 8 回 様々な障害を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）③ 第 9 回 先天性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）① 第 10 回 先天性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）② 第 11 回 先天性疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）③ 第 12 回 予後不良疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）① 第 13 回 予後不良疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）② 第 14 回 予後不良疾患を有する子どもと家族の生活ニーズと援助の方法（発表と討議）③ 第 15 回 小児看護における支援体制や援助方法についての全体討議	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	小児看護学特論、小児看護学特論演習、家族支援特論、特別研究	
テキスト	特に指定しない。	
参考文献	各回に、適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、文献発表(30%)・最終課題レポート(40%)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□演習科目（専門科目）

科目名	小児看護学特論演習	４単位
担当者	柴　邦代	
テーマ	小児看護学領域の研究の特徴と研究方法への理解	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①小児看護学研究の特徴　②文献クリティーク　③研究領域への関心と理解 ④研究方法の課題演習 ＜内容の要約＞ 看護学研究方法についての基本的な知識の学習をもとに、小児看護学領域における既存の研究論文等の文献検討から、さまざまな小児看護学研究のプロセス、方法、結果の導き方などについて、具体的に学ぶ。また、自らの研究疑問の課題としての明確化や、課題に即した研究方法の選択の適切性などについて、深く探求し、研究計画を完成させるための討議や演習を行う。 上記に並行して、研究課題に関連する実践現場への理解を深めるために、院生個々のニーズに合わせて、演習による学習を企画して実施する。 ＜学習目標＞ １.小児看護学領域の研究の特徴と課題について理解を深め、説明ができる。 ２.既存文献のクリティークを適切に行うことができる。 ３.自らの研究課題に適した研究方法選択のための知識を深め、その特徴を説明できる。 ４.自らの関心領域に関わる演習や実習を通して、理解を深め、研究計画につなげることができる。	
授業の進め方	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 小児看護学領域の研究の特徴と方法についての文献学習および文献クリティーク（発表と討議） 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 小児看護学領域の研究の最新の動向と自らの研究課題の明確化（発表と討議） 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回 自らの研究課題に関連する演習や実習 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 30 回 自らの研究課題に応じた研究方法の選択と課題演習（発表と討議）	
事前学習の内容 学習上の注意	履修上の注意 予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の関連科目	小児看護学特論、小児看護学実践論、看護学研究方法特論Ⅰ、看護学研究方法特論Ⅱ、特別研究	
テキスト	特に指定しない。	
参考文献	各回に、適宜紹介する。	
成績評価方法と基準	毎回の授業におけるプレゼンテーション(30%)や、数回の課題レポート(70%)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

□演習科目（研究科目）

科目名	特別研究	８単位
担当者	新美綾子、小笠原ゆかり、白尾久美子、大野晶子、古澤亜矢子、 水谷聖子、森礼子、岡田由香、大橋幸美、柴邦代	
テーマ	修士論文のための研究計画書と論文の作成	
科目のねらい	＜キーワード＞ ①文献検討　②研究計画書　③研究方法　④データ収集・分析　⑤論文作成 ＜内容の要約＞ 　学生自らの主体的問題意識から発する各看護学分野における研究疑問を、既存文献検討を経て研究課題を明確にして、解明に適切な手法による実行可能な具体的研究計画と計画の実施に必要な倫理申請書を作成して実施し、得られた結果を充分に解釈して研究課題を解明し、それらを論文として完成させるとともに口頭発表する。この一連の過程に必要な方法の知識・技術・態度を十分な指導により学修し、看護現象の探求から看護学の知識形成する力を強化させ、研究に取り組む真摯な姿勢と自立した研究者を目指す力を獲得する。 **看護方法学領域**〔新美綾子・小笠原ゆかり〕 　看護技術・看護教育などの看護方法に関する研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて主体的に取り組み、修士論文を作成する。 **成人看護学領域**〔白尾久美子・大野晶子〕 　成人看護学領域に関わる患者および家族の早期回復に向けた身体的・心理的ケアや、がんを含めた慢性疾患に対するセルフケア促進に向けたケアなど、解決すべき研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえ主体的に取り組み、修士論文を作成する。 **精神看護学領域**〔古澤亜矢子〕 　精神看護及び保健に関する課題の中で、家族・職場・医療・地域社会などの関係性によって生じる精神的健康問題や精神病理に関する研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。 **地域看護学領域**〔水谷聖子・森礼子〕 　地域社会で生活する人々のライフステージや価値観、様々な健康課題をふまえ、健康マイノリティや在留外国人を含めた生活の質の向上に向けた研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。 **老年看護学領域**〔※2025 年度は閉講〕 **ウィメンズヘルス看護学領域**〔岡田由香・大橋幸美〕 　ウィメンズヘルス領域における実践的ケアの質向上のために、ライフサイクルやマタニティサイクルに対応した女性及びその家族に対する健康支援について研究課題を明確にし、研究プロセスをふまえて修士論文を作成する。 **小児看護学領域**〔柴邦代〕 　様々な健康レベルにある子どもと家族の看護や小児看護学教育に関する研究課題を明確にし、記述的研究や支援に関わるケア研究などの研究実施のプロセスをふまえて、主体的に取り組み、修士論文を作成する。 ＜次ページにつづく＞	

	＜学習目標＞ **１年前期** １．文献検討により、研究課題を決定することができる。 ２．文献検討により、研究課題に関する研究の背景、目的、意義を明確にすることができる。 【関連科目との連関】 ※「看護学研究方法特論Ⅰ」において基本的な看護研究方法に関する知識を身につけ、各看護学領域の「特論」により、対象や現象の特性に関する基礎的な理論や知識を学修し、各看護学領域の「特論演習」を通して、自らの研究に関する研究課題を明確にし、研究疑問との比較対照を行い、研究課題の新規性について明らかにする。 **１年後期** ３．研究目的に適した研究方法を選択することができる。 ４．研究計画書を作成することができる。 ５．倫理審査に関わる書類を作成することができる。 【関連科目との連関】 ※「看護学研究方法特論Ⅱ」において質的および量的データ収集の具体的方法を学修し、各看護学領域の「実践論」を通して、看護実践の構造や環境についての特徴と既存研究や自らが行う研究との関連についての理解を深め、各看護学領域の「特論演習」を通して、自らの研究に関する研究計画書の作成に向けて具体的に進めていく。 **２年前期** ６．研究計画に基づきデータを収集することができる。 ７．収集したデータについて適切に分析することができる。 **２年後期** ８．修士論文を作成することができる。 ９．修士論文の審査に向けた準備をすることができる。
授業の進め方	**１年前期** 第１回　オリエンテーション　修士論文作成に至るプロセスの確認 第２回　研究疑問の検討 第３回～第５回　研究疑問に関する文献検討 第６回・第７回　研究課題の決定 第８回～第 15 回　研究課題に関する研究背景を明らかにするための文献検討
	１年後期 第 16 回～第 18 回　研究目的と研究意義の明確化 第 19 回～第 23 回　研究目的に適した研究方法の検討選択 第 24 回～第 27 回　研究計画書の作成 第 28 回～第 30 回　倫理審査に関わる書類の作成
	２年前期 第 31 回～第 33 回　倫理審査承認後、データ収集のための手続き 第 34 回～第 45 回　データ収集とデータ分析
	２年後期 第 46 回～第 49 回　結果の構成の検討と執筆 第 50 回～第 55 回　考察の構成の検討と執筆 第 56 回～第 58 回　修士論文の執筆 第 59 回・第 60 回　修士論文審査に向けた準備
事前学習の内容 学習上の注意	事前学習 予習：「看護学研究方法特論Ⅰ」「看護学研究方法特論Ⅱ」及び、各看護学領域の「特論」「実践論」「特論演習」の履修と共に、授業の進め方にそって、事前課題に向けた準備をする。 復習：授業内で受けた指導を基に再考する。 学習上の注意 「看護学研究方法特論Ⅰ」「看護学研究方法特論Ⅱ」及び、各看護学領域の「特論」「実践論」「特論演習」での学修内容を活用しながら、修士論文の作成に向けて計画的に準備を進める。
本科目の 関連科目	看護学研究方法特論Ⅰ、看護学研究方法特論Ⅱ、各看護学領域の特論、実践論、特論演習
成績評価 方法と基準	研究計画書（40 点）及び、修士論文（60 点）を合わせて、総合的に評価する。